

学 界 消 息

1. 今年度学会賞受賞者きまる

昭和32年度学会賞受賞者に関し、推せん委員会から、次の2組が推せんされ、全国理事の無記名投票の結果、可とするもの、15票、否とするもの、2票、棄権、1名で、次の2組が昭和32年度学会賞を受けることになった。

- i) 須田建, 朝倉正: 広範囲高層天気図の解析的研究
- ii) 平尾邦雄, 田尾一彦: 電波気象学に関する研究

2. 岡田賞制度生まる

本年より毎年2件に岡田武松先生を記念して岡田育英会から、岡田賞が出されることになった。内1件は、気象事業に功労のあった人に、1件は優秀な研究者に出され、後者については、その推せんが日本気象学会に委託されることとなった。

3. 大会のシンポジウムに「大気汚染」

本年度の大会におけるシンポジウムは、「大気汚染」ときまった。ただし広義に解釈して、気候変動に及ぼす影響まで、考えることになった。

4. 趙, 涂両氏の講演

IGYの西太平洋会議に出席のため来日された地球物理研究所長の趙九章, 中央気象局長の涂長望両氏の講演が、3月9日気象庁の主催で本庁第1会議室で行われた。趙九章氏はチベット高原の偏西風に与える影響を、力学的にまた熱力学的に、理論上からとシノブチック両面から話され、多大の感銘を与えた。

また涂長望氏は、中国における気象事業の現状について話され、現在急速に発展しつつある模様が伝えられ、深い感動を与えた。

5. 涂氏との懇談会

3月2日17時から山の上ホテルにおいて、全国気象職組は、涂氏を囲んで、懇談会を盛大に催した。中国における生活の様相、青年の結婚問題から、気象局の組織、日中の気象交流の問題など多岐にわたってなごやかに懇談が進められた。

6. 国際地理学会議日本で開催

8月29日から9月2日にわたり、国際地理学会議が、アジア諸地域の気候学的認識を深め、またアジアにおける地理学の調査、研究を促進するために、日本で開かれることになった。初めの3日間は東京で、後の2日は奈良の天理大学で行われる由。

スエーデンのアールマン、アメリカのソンスウェー、イギリスのスタンプ、フランスのジョージュ、ショレー、スイスのベッシュ等の諸権威が来日するそうである。

なおそれにさきだち4月27日、8日には日本地理学会

の会議が開催される。

7. 大阪支部の年会と月例会

大阪支部では支部年会を京都で4月24、25日にわたり行う。また同支部の月例会の予定は次のとおりである。

- 5月 防災(松山) 6月 山の気象(彦根)
- 9月 衛生気象(京都) 10月 大気汚染(大阪)
- 11月 風(岡山) 12月 京大滑川教授講演(京都)
- 1月 海難と気象(神戸) 2月 短期予報(大阪)
- 3月 長期予報(大阪)

新入会員

- 神子敏朗(銚子測候所) 栗原逸夫(松山測候所)
- 寺井俊夫(福井大学) 矢野林造(松山測候所)
- 立園 薫(陸上自衛隊) 玉井定直(//)
- 佐藤義郎(山形県東郷中学校) 野本三男(//)
- 神田 健(熊谷測候所) 新居田明(//)
- 熊井輝義(高松地方気象台) 高橋武郎(//)
- 瀬野錦蔵(京都大学) 大島正三(//)
- 白方良夫(大阪管区気象台) 井手一雄(//)

会員移動

- 新 藻三(西郷測候所に)
- 一色光雄(大阪管区気象台に)
- 松井晋二(奈良測候所に)
- 佐藤 久(高松地方気象台に)

日本気象学会創立75周年記念事業資金密附者名簿(6)

昭和32年2月10日から3月9日までに御寄附を頂いた方々(到着順)は次のとおりです。なお、これをもって申込領収証に代えさせていただきます。もし掲載漏れの方がいましたら至急御連絡下さい。

102	武田京一	11口
103	坂上 務	11口
104	今井一郎	11口
	小 計	33口
	総 計	1,090口

謹 訂

4巻1号と2号に特輯した「座談会：岡田武松先生をしのんで」の中で、誤がありましたので次のように訂正します。

巻号	頁	行	誤	正
4. 1	7	左上から10, 11.	昭和	大正
"	"	左下から	昭和	大正
"	"	右上から	昭和	大正
4. 2	41	左下から	桜井氏	酒匂氏
"	42	左上から	兵備局長	軍務局長